

2016年5月17日
コベルコ建機株式会社

コベルコ建機（ショベル事業） 2016年3月期 決算概要

【2015年度の市場概況と決算データ】

国内の油圧ショベル市場（国内は年度）は、一般ユーザー向けの需要は前年比若干増となりましたが、大手レンタルユーザー向けを中心に前年度から引き続き需要が減少しました。その結果、2015年度の油圧ショベルの総需要は重機ショベルで前年比2割強減少しました。一方、ミニショベルは、上期に排ガス規制の駆け込み需要がありましたが、下期に入り需要は前年比減少傾向を辿り、通期では前年比微増となりました。

海外の油圧ショベル市場（海外は暦年）は、先進国市場である北米、欧州市場は総じて低調に推移しました。北米市場は住宅建設などに若干の明るさが見えましたが、シェールオイルの伸び悩みや新興国経済の停滞などを背景に設備投資などに陰りが見え、重機ショベルの総需は前年比で1割弱減少、ミニショベルは1割弱増加しました。欧州市場は全体的に力強さに欠け、重機ショベルで前年比2割弱減少しました。ミニショベルも1割強減少となるなど、先進国市場は全体として低調に推移しました。

世界最大の油圧ショベル市場である中国市場に関しては、政府による景気刺激策が出されるものの油圧ショベル需要に効果は見られず前年比大きく冷え込み、重機ショベルは4割強減、ミニショベルは2割弱減少しました。重機・ミニを合わせた中国油圧ショベルの総需要は4割弱減少しました。

新興国ではインドが好調に推移し、総需要は1割強増加しました。東南アジア諸国では、タイやフィリピンなど堅調な国もありましたが、最大需要国であるインドネシアが低調に推移したため、東南アジア全体の油圧ショベルの総需要は前年比で2割弱減少しました。

世界の総需要を概括すると、重機ショベルは15.9万台で前年比2割強減少、ミニショベルは14.1万台となり、前年比微減となりました。

2015年度の油圧ショベルを取り巻く市場環境は、大変厳しいものとなりました。コベルコ建機グループでは、市場環境が著しく悪化した中国やインドネシアなどで貸倒引当金を積み、中国の持分会社の減損処理をおこなった他、需要が急減した中国では大幅な生産調整を実施し在庫調整を完了させました。一方、2013年に再進出を果たした米州市場や欧州市場開拓に注力すると共に、中東・アフリカなどの新市場開拓などにも注力しました。国内では大手レンタルユーザー向け需要が大きく低下する中、建物解体機の拡販など一般ユーザーの開拓に注力し、需要の低迷の影響を最小限にとどめました。会社を取り巻く市場環境、事業環境は激動の1年で、2016年3月期（2015年4月～2016年3月）の業績は、以下のとおりとなりました。

<2016年3月期の実績>

{単位：百万円、（ ）内は前年度比}

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連 結	2016年3月期 (前年同期比)	271,775 (▲12.6%)	▲7,160 (▲124.8%)	▲14,495 (▲169.0%)	▲39,830 (▲306.3%)
	2015年3月期	311,008	28,903	21,012	19,310

連結の売上高は、国内事業が1,176億円（前年比▲3.5%）、海外事業が1,542億円（前年比▲18.5%）、連結売上高の海外比率は56.7%となり、連結で海外売上比率が前年比減少しました。（過去3カ年の海外売上高比率 12年：60.0%、13年：56.6%、14年：60.8%）

【2015年度の Kobelco 建機（ショベル）の事業別状況】

■ 国内事業

国内販売は、駆け込み需要の反動が前年度から引き続いており、とりわけ更新需要が一巡しているレンタルユーザー向け需要が大きく落ち込みました。一方、比較的堅調な一般ユーザー向け販売に注力し、増加傾向を示した建物解体向けの解体機需要を着実に取り込むことで、需要の下振れの影響を最小限にとどめました。その結果、2015年度の国内油圧ショベル販売台数は重機ショベルは前年比2割減少しましたがシェアは若干向上しました。ミニショベルの販売台数は微増となりました。

国内生産状況に関しては国内及び東南アジアの需要減などから五日市工場、大垣工場共に生産能力を若干下回る生産水準で推移しました。一方、ビル建て替えなど建物解体工事の活発化に対応するため、大型建機の設備能力を強化し昨年5月から本格稼働を開始、フル生産体制が続いています。

国内の2工場を世界最高水準の生産性とコスト競争力を持った生産拠点にしていくと共に、生産改革をリードしてきたグローバルエンジニアリングセンター（GEC）の活動を更に拡充させ、グローバルな開発・生産体制の構築を進めていきます。

■ 欧米事業

北米現地法人 KCMU（Kobelco Construction Machinery U.S.A. Inc.）は、販売網の拡大に伴い、米国サウスカロライナ州に新工場の建設を進め、本格稼働に向けたテスト生産を開始しています。6月には開所式を行う予定です。欧州地域も着実に販売網の構築が進展しました。

米州、欧州地域とも順調に販売台数が拡大するにつれ、カスタマーサービスの強化の課題も見えてきました。更なる成長を目指す上で、安定的な市場である欧米市場でのプレゼンスの向上が、重機グローバルシェア10%の達成と真のグローバルカンパニーへと繋がると考えており、引き続き市場開拓に注力してまいります。

■ 中国事業

中国では総需要が半減する状況の中、厳しい事業環境が続くとの判断から大幅な生産調整を実施した他、中国の持分会社の減損処理や貸倒引当金を積むなど、可能な限り慎重な事業運営を行いました。通期（1-12月）の販売台数は、ほぼ総需要にリンクして減少し、前年同期と比べ重機ショベルで5割弱減少しましたが、外資12社でのシェアは増加しました。ミニショベルの販売台数は3割強減少したため、重機、ミニを合わせた中国の通期の総販売台数は、前年同期比5割弱の減少となりました。

足下の状況は需要の冷え込み傾向が続いており、政府による景気刺激がどの程度実需に結び付くかは不透明な状況で、需要が反転するまでには今しばらく時間を要すると厳しい見方をしています。

■ APAC地域他 海外事業

APAC エリアは全体的に低調に推移しました。中国経済低迷の影響に加え、共通しているのは通貨下落、インフレ傾向が恒常化していることなどで、域内の経済が低迷しました。インドネシアを主として債権管理を重視した慎重な事業運営を行い、その結果、通期（1-12月）の東南アジア全体の重機ショベルの販売台数は、総需要見合いで1割強減少しました。

世界中の市場で需要が低迷する中、インドは着実に需要が拡大しました。道路などのインフラ整備が進展した他、採石やサンドマイニングなど需要が拡大しました。当社はターゲットとしているハイエンド分野での需要を確実に取り込み、重機ショベルの販売台数は需要の伸びを上回り前年比2割強増加しました。

足下、APAC エリアは依然として低迷状態にあるものの、回復傾向を示している地域も出てきており、各国通貨が安定し、経済基盤が安定していくにつれ回復軌道に復帰するものと期待しています。

コベルコクレーン 2016年3月期 決算概要

【2015年度の市場概況と決算データ】

国内クローラクレーン市場は、関東を中心に東京オリンピック関連施設・都市再開発などによる旺盛な需要が続き、前年比約1割増の560台程度（以下台数は全て当社推定）となりました。

海外市場はエリア毎にばらつきがありますが、全体では需要は前年比約1割減の2,100台程度となりました。エリア別市場動向については、世界総需全体の20%前後を占める北米では需要の中心がシェールオイル関連からプラント・インフラ建設関連にシフトする形で1割強の需要増、欧州では内需拡大の英国を中心に3割強の需要増となりました。一方、世界総需全体の20%前後を占めるAPACでは、原油価格の低下、中国経済の低迷などにより、東南アジア、韓国を中心に需要が大幅に減少し、前年比1割強の減となりました。また、世界総需全体の30%前後を占める中国市場は依然として伸び悩んでおり、インド市場も本格回復には至っておりません。

このような市場環境の変化の下、生産・販売が連携して柔軟な対応を行うことで受注・売上の最大化を図りました。一方、事業環境改善の兆しが見られない中国現地法人においては関係会社事業損失（特別損失）を計上しました。また、東南アジアの採算悪化、製品の品質維持・改善のための費用の増加などもあり、2016年3月期の業績は以下のとおりとなりました。

<2016年3月期の実績>

(単位：百万円)

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	2016年3月期 (前年同期比)	72,799 (+2.4%)	3,430 (▲33.5%)	2,446 (▲52.7%)	▲1,890 (▲149.2%)
	2015年3月期	71,120	5,157	5,168	3,841

【クレーン事業の取り組み状況】

国内販売は旺盛な需要を背景に前年比1割増販売台数を伸ばし、昨年に引き続き会社設立以来最高のクローラクレーン販売台数を達成しました。

港湾向け用途のMK650、本格的な基礎土木向け用途のBM1500Gなど顧客ニーズに合わせた新商品を投入し、好調な販売を継続しております。

海外販売は、北米、欧州向けの販売は好調に推移しましたが、需要の減退に合わせて東南アジア、東アジア向けの販売が大幅に減少し、海外全体での販売台数は前年比約5%の減となりました。

北米、欧州向けには、15年11月より排ガス4次規制に対応した新機種を順次進めております。

生産面では、ものづくり変革活動である「クロスマグマプロジェクト」による受注生産方式のもと、海外向け機種のリードタイム短縮を実現しました。引き続き、国内向け機種のリードタイム短縮にも取り組んでまいります。

インド事業は、クローラクレーン需要が低調に推移する中、直接販売直接サービス体制のもとで着実に需要を取り込みました。また、5月より開始した日本からの委託生産による販売は、東南アジア中心に順調に実績を伸ばしており、アジア向け輸出機の生産販売拠点としての運営が定着できました。

中国事業は、国内景気の低迷によりクローラクレーン需要も引き続き低調に推移しており、依然として回復の兆しは見られません。

2016年度の重点課題と通期見通しについて

<2016年度の重点課題>

当社は本年4月にコベルコ建機(株)とコベルコクレーン(株)が経営統合し、ショベル事業とクレーン事業を有する新しい会社となりました。統合効果を出すこと、両社の強みを生かしシナジー効果をうみだすことが最大の課題となります。また2020年までの新しい中期経営計画がスタートしました。低迷する中国や新興国への対応、間もなく稼働を開始する北米工場のスムーズな立ち上げ、大型クレーン事業の推進に向けた具体的戦略の立案、国内においてはコベルコが目指すICT技術の進展など具体的な課題が控えています。2020年までの新しい中期経営計画で具体化した課題を着実に取り組んでいきます。

<2016年度 総需要予想(ショベル)>

日本については、更新需要が一巡しており需要は引き続き前年比で減少し低調に推移すると予想しています。中国はインフラ投資の拡大が期待されますが、市中にある未稼働機も多数あり新車需要が増加に反転するまでには今しばらく時間を要するため、総需要は前年比弱含みに推移すると予想されます。東南アジアは資源価格の下げ止まりなどを背景に新興国リスクが低下し、各国の経済環境の回復と共に、油圧ショベル需要も徐々に回復してくると予想しており、東南アジア全体の需要としては、前年比若干増になると見込まれます。

米国は、シェールオイル関連の低迷、ドル高を背景にした設備投資の伸び悩みなどから需要は前年比減少と想定されます。欧州もデフレ懸念から景気は反転せず前年比若干下がる見込んでいます。

結果として、2016年度の全世界の油圧ショベル需要は、重機ショベル15.4万台、ミニショベル13.3万台と見込んでいます。

<2016年度 通期業績見通し(ショベル)>

2016年度の市場環境は、2015年度並みと想定しています。市場環境は好転しないものの、中国持分法適用会社の減損処理を実施済みで、2016年以降の連結損益に影響がないこと、急激に市場が低迷した中国、インドネシアでの貸倒引当金を十分に積んだこと、中国での在庫調整は完了しており2016年は販売見合いの生産体制になっていること、米州・欧州地域での販売増加を期待できることなどの諸施策の対策効果もあり、2016年度は黒字転換すると予想しています。

<2016年度 総需要予想(クレーン)>

国内のクローラクレーン市場は、一部エリアで建築資材の高騰、人材不足などにより工期の遅れが目立ち、やや減速傾向が出始めておりますが、オリンピック関連の建設工事の本格化等、国内全体の需要は関東を中心に引き続き高レベルで推移する見通しです。

米国は引き続きプラント、インフラ関連工事が堅調でクローラクレーン需要は増加する見込みです。一方、東南アジア、東アジアは、中長期的には成長が期待できる市場ですが、回復には時間を要すると見込んでおり、16年度の需要は前年を下回ると予想しています。また中国市場は更なる低下、インド市場は緩やかに回復に転じると予想しています。海外市場全体では需要は前年比1割程度減少する見通しです。

<2016年度 通期業績見通し(クレーン)>

国内のクローラクレーン市場は、一部エリアで建築資材の高騰、人材不足などにより工期の遅れが目立ち、やや減速傾向が出始めておりますが、国内全体の需要は関東を中心に引き続き高レベルで推移する見通しです。

海外市場においては北米、インドが増加する見込みですが、東南アジア、東アジアでの需要は引き続き低調に推移する見通しで、全体では需要は前年比1割程度減少する見通しです。

市場の潮目が変わりつつある中、海外向けから国内向けへの生産枠の振替えなど、受注環境の変化に対応した柔軟な生産体制の構築と機会損失の最小化を図り、事業の安定に向けた体質強化を進めてまいります。

これらの結果、2016年度の通期見通しは下記のように予想しています。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2016年度通期 連結見通し	335,000	13,000	8,000	4,000

(2016年度通期における為替レート前提： 1米ドル=115円、1ユーロ=130円)

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。
実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以上

平成28年3月期 決算業績概要

会社名	コベルコ建機株式会社	TEL: 03(5789)2111
代表者	代表取締役社長	植木一秀
問合せ先責任者	企画管理部長	細見浩之
親会社名	株式会社神戸製鋼所(当社株式の保有比率:100%)	

1. 平成28年3月期の連結業績(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(1) 連結経営成績
(旧コベルコ建機)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業損益		経常損益		親会社株主に帰属する 当期純損益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期	271,775	△ 12.6	△ 7,160	△ 124.8	△ 14,495	△ 169.0	△ 39,830	△ 306.3
27年3月期	311,008	△ 2.3	28,903	17.7	21,012	39.0	19,310	23.0

	1株当たり当期純損益
	円 銭
28年3月期	△124 46
27年3月期	60 34

(2) 連結財政状態
(旧コベルコ建機)

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期	372,130	71,153	14.2
27年3月期	455,401	136,327	22.6

2. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純損益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
連結(通期)	335,000	-	13,000	-	8,000	-	4,000	-

*上記の予想は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであります。

実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

*上記の予想にはクレーン事業の数値を含みます。

平成28年3月期 決算業績概要

会社名	コベルコ建機株式会社	TEL: 03 (5789) 2111
代表者	代表取締役社長	榎木 一秀
問合せ先責任者	企画管理部長	細見 浩之
親会社名	株式会社 神戸製鋼所 (当社株式の保有比率: 100%)	

1. 平成28年3月期の連結業績(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(1) 連結経営成績

(旧コベルコクレーン)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純損益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期	72,799	2.4	3,430	△ 33.5	2,446	△ 52.7	△ 1,890	△ 149.2
27年3月期	71,120	25.6	5,157	53.4	5,168	61.5	3,841	8.8

	1株当たり当期純損益
	円 銭
28年3月期	△18,211 18
27年3月期	37,007 49

(2) 連結財政状態

(旧コベルコクレーン)

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期	67,109	27,850	40.2
27年3月期	66,459	31,682	46.0